三十三回蒼天句会 今月の一句

令和七年七月十日 兼題…さくらんぼ、又は自由

掛け算の初め二の段さくらんぼ 公子

母を待つ声賑やかに雀の巢 婦紗子

おっしよいと博多山笠かけまわし 賢一

さくらんぼ日に日に遠くなる故郷 繁一

兄妹のセピアの写真さくらんぼ 孝志

開け放しよりも気の張る網戸かな 洋一

朗読の声すがすがし夏椿 信江

万緑や光る湯殿に四肢とけて 静江

聞く振りの夫の正論夏の夕 鎮夫

さくらんぼ盛り美しきさあ食べよ 国祥

鳶円舞夏の山並み潮の風 隆彦

海の日や写真の兄は学徒兵 重子

よくそろふ双子の返事さくらんぼ 朱美

幸ちゃんと恋バナしたねさくらんぼ 紹子

気まぐれの雷雨に惑うお買物 久恵